

報道関係者 各位

令和5年12月22日
 老健局高齢者支援課
 課長 峰村 浩司
 高齢者虐待防止対策専門官
 乙幡 美佐江
 主査 後藤 美詞(内線 3995)
 (代表電話) 03(5253)1111
 (直通電話) 03(3595)2888

令和4年度「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づく対応状況等に関する調査結果を公表します

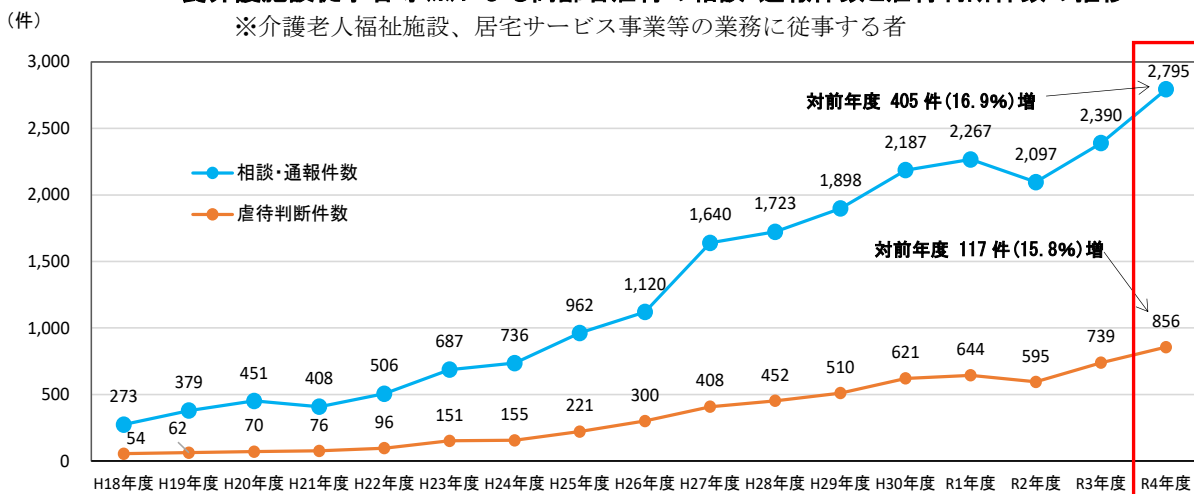
厚生労働省では、このたび、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」(高齢者虐待防止法)に基づく、令和4年度の対応状況等に関する調査結果を取りまとめましたので、公表します。

この調査は、平成19年度から毎年度行われており、平成18年4月に施行された「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づき、全国の市町村及び都道府県で行われた高齢者に対する虐待への対応状況をまとめたものです。

【調査結果(相談・通報件数等)】

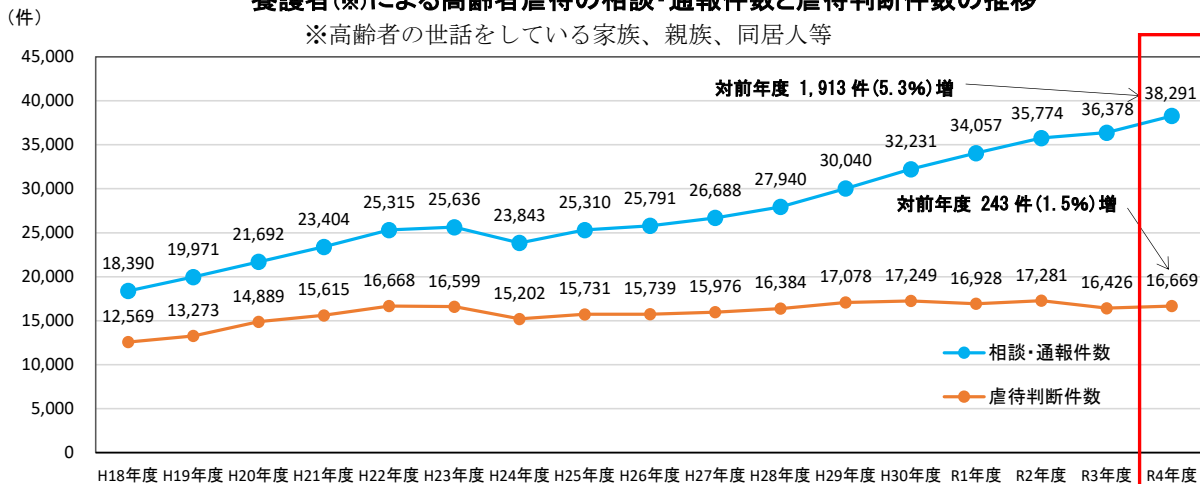
養介護施設従事者等(※)による高齢者虐待の相談・通報件数と虐待判断件数の推移

※介護老人福祉施設、居宅サービス事業等の業務に従事する者



養護者(※)による高齢者虐待の相談・通報件数と虐待判断件数の推移

※高齢者の世話をしている家族、親族、同居人等



【主なポイント】

■養介護施設従事者等（※）による虐待

※介護老人福祉施設、居宅サービス事業等の業務に従事する者

- 相談・通報件数は、2,795件（対前年度405件(16.9%)増）。※過去最多で2年連続増加
虐待判断件数は、856件（対前年度117件(15.8%)増）。※過去最多で2年連続増加
- 相談・通報者の内訳は、当該施設職員（27.6%）が最も多く、当該施設管理者等（15.9%）、家族・親族（15.5%）の順。
- 虐待の種別は、身体的虐待（57.6%）が最も多く、心理的虐待（33.0%）、介護等放棄（23.2%）、経済的虐待（3.9%）、性的虐待（3.5%）の順。
- 虐待の発生要因は、教育・知識・介護技術等に関する問題（56.1%）が最も多く、職員のストレスや感情コントロールの問題（23.0%）、虐待を助長する組織風土や職員間の関係の悪さ、管理体制等（22.5%）の順。
- 施設・事業所の種別は、特別養護老人ホーム（32.0%）が最も多く、有料老人ホーム（25.8%）、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）（11.9%）の順。
- 虐待等による死亡事例は、8件（8人）。

■養護者（※）による虐待

※高齢者の世話をしている家族、親族、同居人等

- 相談・通報件数は、38,291件（対前年度1,913件(5.3%)増）。※過去最多で10年連続増加
虐待判断件数は、16,669件（対前年度243件(1.5%)増）。※横ばい傾向
- 相談・通報者の内訳は、警察（34.0%）が最も多く、介護支援専門員（25.0%）、家族・親族（7.5%）の順。
- 虐待の種別は、身体的虐待（65.3%）が最も多く、心理的虐待（39.0%）、介護等放棄（19.7%）、経済的虐待（14.9%）、性的虐待（0.4%）の順。
- 虐待者の続柄は、息子（39.0%）が最も多く、夫（22.7%）、娘（19.3%）の順。
- 虐待の発生要因は、被虐待者の状態として認知症の症状（56.6%）が最も多く、虐待者側の要因として介護疲れ・介護ストレス(54.2%)、理解力の不足や低下(47.9%)の順。
- 虐待等による死亡事例は、32件（32人）。